

## 「新指定・新登録・新選定」答申物件

### 《史跡名勝天然記念物の新指定》

#### 【史跡】12件

##### 1 しらかわじょうあと 白川城跡【福島県白河市】

鎌倉時代から戦国時代にかけて、陸奥南部一帯に勢力を有した白河結城氏の居城跡である。発掘調査によって、南北朝から戦国期までの遺構が良好に遺存することを確認した。中世陸奥南部の政治・軍事の歴史を知る上で重要。

（鎌倉時代から戦国時代にかけて、陸奥南部一帯に勢力を有した白河結城氏の居城跡。）

##### 2 やまもと いせき 山元遺跡【新潟県村上市】

新潟県北部の弥生時代後期の日本海側最北の高地性環濠集落。居住域と墓域から成る。ガラス小玉・筒形銅製品・土器から北海道・東北北部、東海、北陸地域等と交流があったことを示す。北陸文化圏と東北文化圏の接点に位置し、東日本における弥生時代後期の社会及び文化のあり方を知る上で重要。

（北陸文化圏と東北文化圏の接点に所在する弥生時代後期の高地性環濠集落。）

##### 3 いいだこふんぐん 飯田古墳群【長野県飯田市】

5世紀後半から6世紀末まで、長野県南部、飯田盆地に営まれた古墳群。大和政権と深い関係があり、古墳築造の背景には馬の生産があったと考えられる。東国経営のあり方を知る上で重要。

（飯田盆地に馬の文化を基盤にして展開した古墳時代中・後期の古墳群。）

##### 4 なり あいじきゅうけいだい 成相寺旧境内【京都府宮津市】

特別名勝天橋立を見下ろす成相山の中腹に位置する奈良時代に創建されたとされる山林寺院。平安時代以降は我が国を代表する山岳霊場として信仰を集め、その法灯を今に伝える。旧境内に伴う遺構が良好な状態で保存され、山林寺院の空間利用や展開を知る上で重要。

（平安時代以降に我が国を代表する山岳霊場として信仰を集めた寺院。）

## 5 だいせんじきゅうけいだい 大山寺旧境内【鳥取県西伯郡大山町】

古くからの信仰の山である中国山地最高峰，大山（みせん 弥山）の北面中腹に位置する山林寺院。地蔵菩薩（すいじゃく 垂迹，だいちみょうごんげん 大智明権現）を信仰の中心とし，中世に最大となった。近世には三院四十二坊の体制をとり，中・近世の建造物が遺存するとともに，子院（僧坊）には石垣，土塁などが残る。我が国を代表する山林寺院のひとつとして重要。

（古くからの信仰の山である大山の中腹に位置する我が国を代表する山林寺院。）

## 6 びんごこくふあと 備後国府跡【広島県府中市】

広島県南東部に位置する古代備後国の国府跡。ほぼ方一町の区画溝に囲まれた大型掘立柱建物群（ほったてばしらたてもの）や礎石建物群（そせきたてもの），苑池（えんち），古代寺院など国府の多様な機能を示す遺構群とともに，国産施釉陶器や貿易陶磁器（かんが），官衙関連遺物が多数出土する。8～12世紀の国府の様相を知る上で重要。

（国府を構成する諸施設の存在が判明した古代備後国の国府跡。）

## 7 なるといたのこふんぐん 鳴門板野古墳群【徳島県鳴門市】

弥生時代終末期の四国東部に特徴的な積石塚及び古墳時代前期の円墳・前方後円墳から成る古墳群。東部瀬戸内海南岸地域における古墳出現期の様相を示すとともに，大和政権からの影響を受け変容していく過程を知る上で重要。

（あさん 阿讃山脈東南麓の弥生時代終末期から古墳時代前期に営まれた古墳群。）

## 8 いよへんろみち 伊予遍路道

ぶつもくじみち  
仏木寺道

よこみねじみち  
横峰寺道

### 【愛媛県宇和島市・西条市】

空海ゆかりの寺社を巡る全長1,400kmにも及ぶ霊場巡拝の道の一部。いよのくに 伊予国分を伊予遍路道と呼び，そのうち，第41番札所から第42番札所，第59番札所から第60番札所に至る遍路道の，遺存状況の良好な道筋を指定。

（民間に広く普及した信仰の道で，伊予国の遺存状況の良好な遍路道。）

## 9 と さ へ ん ろ み ち 土佐遍路道

### し ょ う り ゅ う じ み ち 青龍寺道

#### 【高知県土佐市】

空海ゆかりの寺社を巡る全長1,400kmにも及ぶ霊場巡拝の道の一部。  
と さ の く に 土佐国分を土佐遍路道と呼び、そのうち、第35番札所から第36番札所に至る遍路道の、遺存状況の良好な道筋を指定。

（民間に広く普及した信仰の道で、土佐国の遺存状況の良好な遍路道。）

## 10 ふ な ば る こ ふ ん 船原古墳【福岡県古賀市】

6世紀末～7世紀初頭の九州北部における前方後円墳の終焉状況、当該地における朝鮮半島や大和政権との関係性と重要性、葬送儀礼の実態解明など、日本列島の当該期社会を考える上で重要。

（質・量とも傑出した遺物を有する九州北部最終末期の前方後円墳。）

## 11 ひ が し み ょ う い せ き 東名遺跡【佐賀県佐賀市】

1か所にまとまる居住域・貝塚・貯蔵穴群からは縄文時代早期末葉（約7,000年前）の集落構造が明らかとなり、遺存状態が極めて良好な生活用具や食料残滓からは、当該期の詳細な生活内容の復元が可能となった全国的にも稀有な遺跡。

（縄文時代早期末葉の詳細な集落構造がわかる全国でも稀有な遺跡。）

## 12 な が き げ ん ば く い せ き 長崎原爆遺跡【長崎県長崎市】

昭和20年（1945）8月9日に長崎に投下された原子爆弾の被害を伝える遺跡。爆心地、被爆校舎である旧城山しろやま国民学校校舎、崖下の小川に滑落した浦上天主堂旧鐘楼、爆風により傾いた旧長崎医科大学門柱、爆風で一本柱となった山王神社二の鳥居から成る。

（第二次世界大戦の末期、長崎に投下された原子爆弾の被害を伝える遺跡。）

【名勝】 2 件

1 <sup>よなこばくふぐん</sup> 米子瀑布群 【長野県須坂市】

長野県の北東部を流れる<sup>よなこがわ</sup>米子川上流の標高 1, 600 m 付近に位置し、落差 80 m 余りの<sup>ごんげんだき</sup>権現滝と<sup>ふどうだき</sup>不動滝をはじめ、十数条の滝から成る。古くから信仰の対象ともなってきた風致景観が優れている。

（長野県の北東部を流れる米子川上流に位置する壮観な複数の滝。）

2 <sup>きゅうぬまづごようていえんち</sup> 旧沼津御用邸苑地 【静岡県沼津市】

沼津の保養地に明治から大正に造営された旧御用邸の風光明媚な苑地で、旧本邸・東附属邸・西附属邸の 3 つの区域から成り、クロマツ林と芝生地、そして、海浜に臨み、富士山・<sup>うしぶせやま</sup>牛臥山を望む風致景観をよく保持している。

（沼津の保養地に近代に造営された旧御用邸の風光明媚な苑地。）

【天然記念物】 1 件

1 <sup>みやこじまぼら</sup> 宮古島保良の<sup>せっかい か だんきゅう</sup>石灰華段丘 【沖縄県宮古島市】

棚田のような形状のカルスト地形の一種。長さ約 70 m、幅約 30 m の範囲に、石灰沈殿物（石灰華）によって縁取られた小さな池が 300 個以上も分布する。野外の石灰華段丘として国内最大の規模であり、学術上貴重。

（棚田のような形状のカルスト地形で、野外の石灰華段丘として国内最大規模。）

## 《登録記念物の新登録》

### 【名勝地関係】 3件

#### 1 <sup>そね していえん じそうあんていえん</sup> 曾根氏庭園(磁叟庵庭園)【岐阜県瑞浪市】

製陶業を営んだ曾根氏の本邸に、昭和2年（1927）に造られた庭園。石橋の架かる枯流れや、縁先<sup>かれなが</sup>を結んで縦横に打たれた飛石<sup>とびいし</sup>の構成に特徴があり、岐阜県における造園文化の発展に寄与した意義深い事例。

（岐阜県瑞浪市 of 製陶業者の本邸に昭和初期に造られた庭園。）

#### 2 <sup>まにさん</sup> 摩尼山【鳥取県鳥取市】

鳥取県東部に位置し、大山<sup>だいせん</sup>や三徳山<sup>みとくさん</sup>と並ぶ天台宗の拠点<sup>きょがん</sup>的靈山で、特に巨巖・岩窟等から成る奥の院の奇景に優れ、日本海・鳥取砂丘等を一望する鷲が峰<sup>わし みね</sup>（立岩<sup>たていわ</sup>）は展望地点として親しまれ、山内の石仏群も風致を添える意義深い事例。  
（奥の院の奇景と立岩からの眺望に優れた天台宗の古刹。）

#### 3 <sup>きゅうな か そね していえん</sup> 旧仲宗根氏庭園【沖縄県宮古島市】

宮古島の頭職を輩出した仲宗根氏の邸宅に、昭和4年（1929）に造られた庭園。琉球石灰岩を基調とし、入り組んだ汀線<sup>ていせん</sup>を有する園池に5つの岩島を配する構成は、沖縄本島の伝統的庭園の特徴にも通じ、離島地域における近代の造園文化の発展に寄与した意義深い事例。

（宮古島の旧士族の邸宅に昭和初期に造られた庭園。）